

コーチとは？

指導者、教育者、との違いは？

試合の為に、選手を教え、訓練し、コンディション調整を行う人。

- * 総合的な献身を要求される職業
- * ゲームに必要な様々な基礎を実行出来る様に、適切かつ効果的に教えること。
- * リーダーシップと合理的な訓練が出来る事。

- * ゲームに関する徹底した知識を持たなければならない。

起源からどの様に発展し現在にいたっているかを知らなければならない。

- * 心理関係、個人差、人間関係、社会問題、教育、等の幅広い知識を持て。
- * 映像などを上手く利用する手法を持ちたい。
- * 系統的な考えを持ち。工夫 創造力を常に働かせたい。
- * 共同体の中で、健康的で活動的コミュニケーションを持つ様に努めたい。他人の援助を受けようとすると同時に、出来るだけ他人に力を貸す事も必要。
- * えこひいきをしない心。全ての選手に自覚を持たせる。
- * 温かい心、快くコミュニケーションする気持ち、心から他人の事を考える気持ち
- * 個人的な決定を下すプレーヤーたちの評価(別表)
- * チームのメンバーを選ぶ(別表)

コーチ成功の基：己を知る事こそ真実*常に向上心を持つ。

指導理念：人間として成長させていく時、何を先に教え、どういう事を後回しにするのか、確固たる自分の「優先順位」を持っている事。

背伸びをしないコツコツと一步一步を大切に！

良き師を持とう。

貪欲に学ぼう 沢山のゲーム、クリニック、子供たちから沢山の事を学ぶ気持ち。

教え子の心に残るコーチたれ！

目標の設定 コーチ、選手の目標

選手の立場に立った練習 プレーヤーとの良い関係づくり、やる気をどの様に引き出すか？

* やりがいのある練習とは

選手の競り合いを造り出す練習

勝利への努力

勤勉 誠実

熱意 愛情 同情

判断力 セルフコントロール 忍耐 細かい事への配慮 公平さ

高潔さ 常に若者のリーダー 不健全、不正直ではいけない

* チームの決まり 少ないほど良い 選手が決める。

* コーチとプレイヤーの関係を確立する決して恥をかかせない、教えるのであって命令ではない。コート外でのコミュニケーションは大切。ア・コーチとの関係

審判たちとのコミュニケーション。

言葉を使う方法 しつこい強調

教えるときの厳しさ

コート外での振る舞い

一人ひとりの心がけ

言葉を使わない方法

問題になる振る舞いの取り上げ方

1対1での話し合い 他人を交えて

健全な選手の選択

横柄な態度はどちらも良い結果を生まない

個人の個性の扱い方。

同等の責任、分かち合う心：選手だけではなくコーチも大切

認めてあげる事の大切さ。

嫉妬、利己主義、ねたみ、あらさがし、これらは前進を阻む

チームを第一に考える事の大切さ。

進歩の為の変化。

良い習慣をつける基礎の徹底：「基礎から全ては始まる」

何が悪くてこの結果：の原点は之が基礎力。

満足をしてはいけない、常に前を向いて工夫を！

教えすぎるより、選択して教えること。初めから全部を教えない。それらが十分に実行出来てからで遅くない。

選手の自発的で創造的なことを破壊する様な事はしない。

ゲームではバランスのとれた攻撃法を工夫すべき。得点だけではなく、細かい、目立たない点に於いても目を向けて気づく心配りを！

レギュラー選手を造るのではなく、一つのチームを造りあげなくてはならない。

チームのプライドを造る 言葉、しぐさ 対応など

相手を悩ませるチームを造ろう：その為の工夫、研究を！

子供と共に育っていくのが指導者だと感じる。

コート外の援助者

*選手の家族と何気ない、良い関係を持っているべきだ。

*担任の先生との関係づくり

*他のコーチ、トレーナーとのコミュニケーションも大切。

コーチと社会との関係

社会と報道関係

特別な問題の取り扱い

風紀：一人だけを浮き上がらせてはならない

健康管理

服装 髪型 言葉使い

6番目の選手 大切な問題

敗戦 選手のせいにしてはならない。何が悪くてこうなったかを分析して次に
つながる様に強調すべき。

チーム精神 試合を捨てない。負けたくない。この気持ちの継続が大切。

チーム造りの計画

練習の計画

戦法 オフェンス デフェンス

健康診断

コンデション

ウエイト・トレーニング

マスタープラン

治療の計画

榎本 日出夫

20011・2・7